

<研究会>9. 下顎の両側性に発生した単純性骨嚢胞の1例(第12回北海道医療大学歯学部口腔外科研究会)

著者名(日)	大友 靖臣
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	14
号	2
ページ	234
発行年	1995-12-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00008099/

療法の組み合わせが最も多く19例、次いで外科療法単独のもの8例、放射線療法は少数例に用いられていた。

また、5年累積生存率は54.1%であった。

9. 下顎の両側性に発生した単純性骨嚢胞の1例

大友 靖臣

(北海道医療大学歯学部口腔外科第I講座)

今回われわれは、右側の下顎枝部ならびに左側の大臼歯骨体部にみられた単純性骨嚢胞の1例を経験したので、その概要を報告した。

患者は14歳の女性で、歯科治療時にX線撮影を行ったところ、 $\overline{78}$ 相当骨体部と右側下顎枝前縁部に透過像がみられたため、当科を紹介され来院した。

初診時の所見では、左側下顎骨の頰側にわずかに骨の膨隆を触知し、X線所見では、 $\overline{78}$ 相当骨体部に拇指頭大、左側下顎枝前縁部に小指頭大の比較的境界明瞭な透過像を認めた。生検のため、左側骨体部の頰側皮質骨に

ラウントハーにて穿孔したところ、穿孔部より黄色透明・漿液性の内容液が吸引され、嚢胞内には軟組織は認められず、直接骨面を触知した。

初診より3か月後の手術時、右側下顎枝部では黄色透明・漿液性の内容液を容れた骨腔がみられ、その内壁は滑沢な骨から成っていたため、搔爬等は行わず一次閉鎖した。なお、左側骨体部に前回認めた嚢胞腔は、新生骨で満たされていたため、とくに処置は行わなかった。

現在術後3か月で、右側下顎枝部の透過像も消失傾向を示し、経過良好である。

10. 100%歯磨き達成を通じて得られた成果について

○津金澤秀樹¹⁾、村川 善行²⁾、田中 收³⁾

(陸自東千歳駐屯地医務室¹⁾)

(ムラカワデンタルクリニック²⁾)

(北海道医療大学医科歯科クリニック³⁾)

眞者が『100%歯磨き』を達成したことにより、歯科医師または口腔衛生管理を担う者として貴重な成果を得ているためこれを報告した。『100%歯磨き』を達成するとは、ハフラシ1本で歯面からプラークを完全に除去するまで磨き込んでからチェックを受け、一箇所でも一点でもプラークが付着していたら不合格となる。我々口腔衛生指導を行う者にとってはきて当たり前のことではあるが、実際のところ一回で合格する人はまずいない。また、100%達成を経験したものは似たような壁にふつかる。それを克服することにより得られる気付きや発見は経験者に大いなる達成感と臨床に対する自信を与えることになる。以下、100%歯磨き達成を通じて得られた効果について

列記する。

*技術的には磨き込んでプラークを完璧に除去し、歯肉の変化も経験したのであるから予削能力が付き、歯磨き指導に自信が付く。

*精神的には苦勞して獲得した自分自身の口腔内の健康や歯磨き指導能力の向上により、自分の健康観が変わり、患者の気持ちがわかり優しくなれ、患者との信頼関係が強まり、患者が気付くまで待つ指導の重要性を認識する。そして、歯磨き指導や診療が楽しくなる。100%に挑戦するための環境づくりには、困難な面もあるが、是非みなさまにも経験していただきたい試みてあると確信している。